

市民ホール基本計画(案)概要



文化振興ビジョン・市民ホール基本計画シンポジウム
平成24年3月20日(火・祝)

市民ホール基本計画(案)

1. 基本計画の位置づけ

年度	分類		内容
21	計画策定	市民ホール基本構想	・基本理念
22			・事業の基本方針 ・施設機能の方針
23		小田原市文化振興ビジョン	・文化振興のあり方 ・施策の機能、規模、構成
		市民ホール基本計画	・事業方針 ・施設の概要、機能、規模 ・整備推進方針
24	管理運営計画	・事業計画 ・運営組織のあり方 ・運営手法	
	設計者選定	・設計の条件	
25	設計	基本設計	・全体規模、建物や諸室の配置の検討と決定 ・動線の検討と決定 ・必要な設備の選択と決定 ・概算工事費の算出
26		実施設計	・工事発注のための図面作成 ・数量、単価など経費内訳書作成
27	施工	建設工事	・建築、機械、電気、空調、衛生、昇降機、
28			・舞台設備などの工事

市民ホール基本計画(案)

2. 市民ホール整備の目的

(1) 基本構想

①基本理念

多様で豊かな市民の芸術文化創造活動からわきあがるクリエイティブな力と熱意が市民ホールからまちへとあふれ未来に開かれた文化都市を創造する。

②使命

育てる<育成普及>	<ul style="list-style-type: none">・文化を支える次世代をそだてる・文化を支える裾野をひろげる・新しい表現や優れた才能をそだてる・地域文化を支えそだてる
感動を伝える<鑑賞>	<ul style="list-style-type: none">・芸術文化に触れる・新しい表現や優れた才能に出会う・文化的感性を養う
創りあげる<創造参加>	<ul style="list-style-type: none">・新たな小田原の地域文化を創りあげる・市民主体となった創造活動・小田原らしさの発信
集い交流する<施設運営>	<ul style="list-style-type: none">・積極的な施設運営(利用促進・活動促進)・芸術文化の拠点としての交流の促進・にぎわい創出・芸術文化をとおしたネットワークづくり

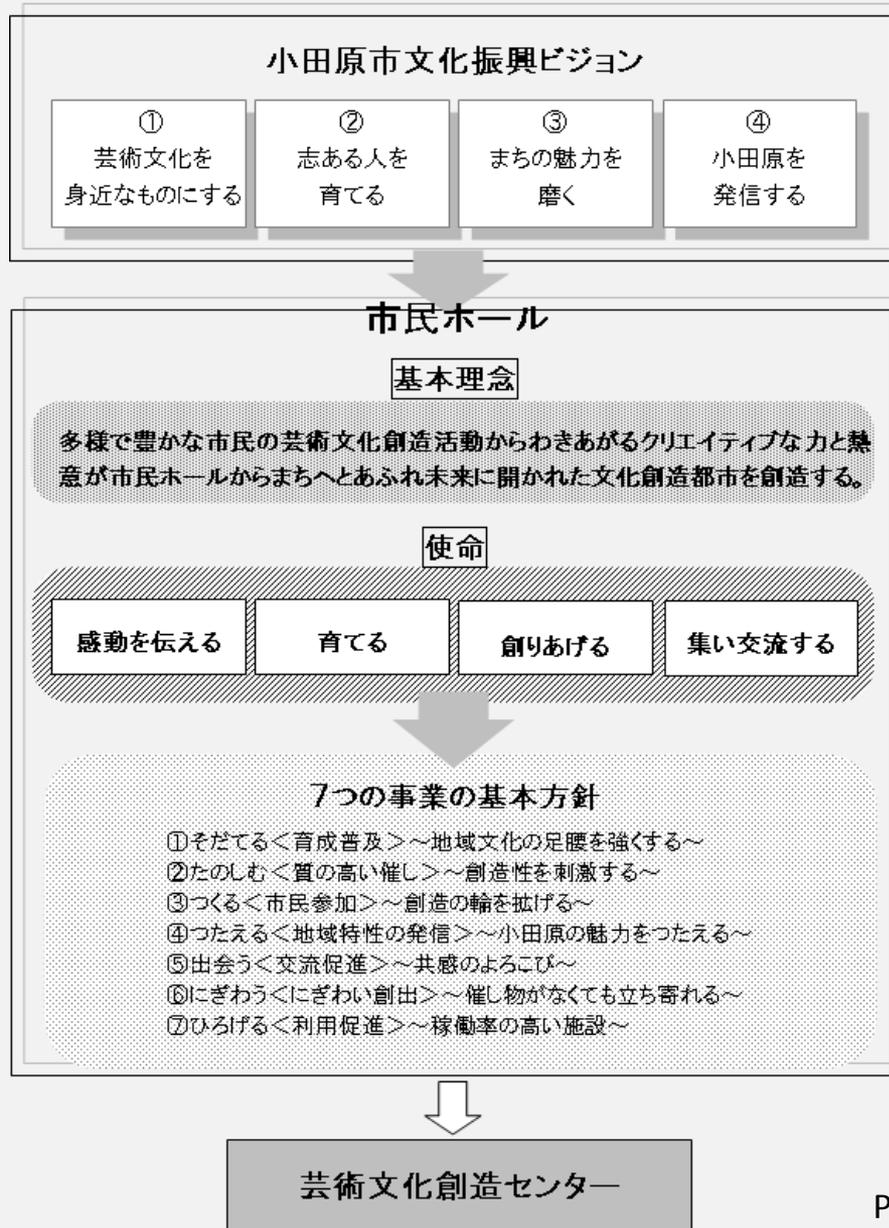
(2) 施設の目指す方向性 ～芸術文化創造センターとして～

(3) 文化関連施設の役割分担

3.事業方針

(1) 基本的な考え方

【市民ホールが担う役割】



3.事業方針

(2)事業内容

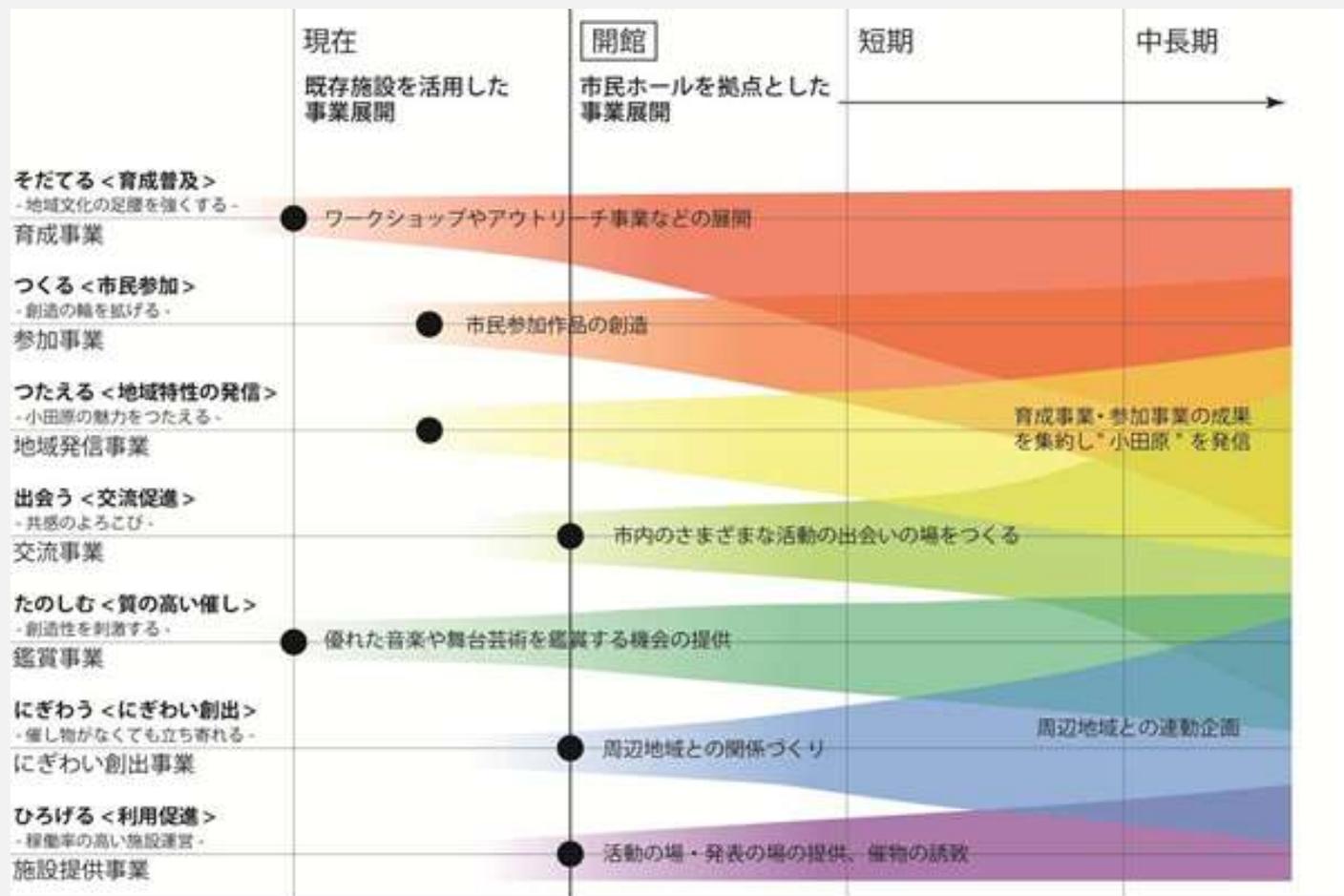
- ①そだてる<育成普及>～地域文化の足腰を強くする～:育成事業
- ②たのしむ<質の高い催し>～創造性を刺激する～:鑑賞事業
- ③つくる<市民参加>～創造の輪を広げる～:参加事業
- ④つたえる<地域特性の発信>～小田原の魅力をつたえる～:地域発信事業
- ⑤出会う<交流促進>～共感のよろこび～:交流事業
- ⑥にぎわう<にぎわい創出>～催し物がなくても立ち寄れる～:にぎわい創出事業
- ⑦ひろげる<利用促進>～稼働率の高い施設～:施設提供事業

市民ホール基本計画(案)

3.事業方針

(3) 拠点施設としての連携のあり方

(4) 中長期的な事業展開の考え方



4.施設計画

(1)施設整備の基本的な考え方

- ①芸術文化創造の拠点 ～芸術文化活動の中核として市民に愛され利用される施設～
- ②機能的で使いやすい施設 ～芸術文化の多様性や将来の可能性への対応～
- ③人にやさしい施設 ～誰もが快適で安心して利用できる～
- ④にぎわいの創出 ～気軽に訪れることのできる親しみやすさと回遊性の向上～
- ⑤景観への配慮 ～立地を活かした景観の形成～
- ⑥環境との調和 ～環境負荷の少ないまちづくりへの貢献～
- ⑦防災対策 ～十分な防災対策と運用～
- ⑧コストへの配慮 ～中長期的視点～

4.施設計画

(2)各機能の概要

①大ホール系機能

舞台

- ◎クラシック音楽・ポピュラー音楽などの音楽芸術やオペラ・バレエ・ミュージカル・演劇・歌舞伎等の舞台芸術など各ジャンルの公演、市民による各種芸術文化活動の発表、市民集会、学校や事業所の式典、大規模大会などの用途が想定されます。
- ◎生音の響きが求められるオーケストラによる音楽利用から、本格的な舞台芸術作品の上演まで、多様な演目に対応することのできる多目的型とします。
- 可動式音響反射板を備えることで、生音の響きを活かす音楽利用にも十分に対応できる機能を備えます。
- 本格的な舞台芸術作品の上演に対応できる充実した舞台設備を備えます。
- プロセニウム形式の舞台を持つホールを基本とします。
- 十分な広さの側舞台を確保します。
- ◎大型搬入車両(ガルウイングにも対応)による荷捌きが可能な搬入口を備えます。
- ◎舞台に隣接して楽器庫、十分な広さを備えた舞台備品倉庫などを計画します。

4.施設計画

(2)各機能の概要

①大ホール系機能

客席

- ◎客席は1,200席程度とします。
- ◎多層バルコニー席を備え、1階席のみを利用した700席から800席程度の場合でも空席感を感じることがない計画とし、大小ホールの中間的な規模のホールとしての利用ができるように配慮します。
- ◎舞台からの視距離を極力短くするとともに、客席の配置について考慮し、どの席からも十分な鑑賞環境を確保します。
- ◎舞台上から発せられた音を客席全体に有効に響かせることができる客席形状を工夫します
- ◎客席の快適性にも配慮した計画とします。
- ◎固定客席を基本として、オーケストラピットなど一部可動する機能を備えます。
- ◎車いすでの鑑賞には、介助者も含め、十分な鑑賞環境を確保するよう配慮します。
- ◎客席後部に各種調整室、多目的室を配置します。

4.施設計画

(2)各機能の概要

①大ホール系機能

付随機能（小ホール系機能と共用可能なものを含みます）

- ◎ホワイエには、バーカウンター、トイレ(女性数に配慮・みんなのトイレを含む)、主催者事務室や客席係控室、クローク(一部ロッカーでの対応も検討)、付随する倉庫などを計画します。
- ◎楽屋は、十分な設備を備えた大・中・小楽屋を不足のないように計画し、防音にも配慮します。
- ◎楽屋エリアには、舞台技術スタッフ控室、アーティストラウンジ、給湯室、トイレ(みんなのトイレを含む)、シャワー、洗濯・乾燥機スペース、楽屋事務所(楽屋口に隣接)などを計画します。

4.施設計画

(2)各機能の概要

②小ホール系機能

舞台

- ◎クラシック音楽・ポピュラー音楽などの音楽芸術やミュージカル・演劇等の舞台芸術、伝統芸能など各ジャンルの公演、バレエやピアノなどをはじめとする市民による各種芸術文化活動の発表、市民集会、講演会、映像作品の上映などの用途が想定されます。
- ◎生音の響きが求められる音楽利用から、舞台芸術作品の上演まで、多様な演目に対応する多目的型とします。
- 可動式音響反射板を備えることで、生音の響きを活かす音楽利用にも十分に対応できる機能を備えます。
- 舞台芸術作品の上演に対応できる舞台設備を備えます。
- ◎大型搬入車両(ガルウイングにも対応)による荷捌きが可能な搬出入口を備えます。
- ◎舞台に隣接して楽器庫、十分な広さの舞台備品倉庫などを計画します。

4.施設計画

(2)各機能の概要

②小ホール系機能

客席

- ◎300席程度の段床式の固定席とします。
- ◎張出舞台が容易に設置できるように、一部取外し可能な席を計画します。
- ◎どの席からも十分な鑑賞条件を確保するよう、客席の配置に配慮します。
- ◎車いすでの鑑賞には、介助者も含め、十分な鑑賞環境を確保するよう配慮します。
- ◎客席後部には、各種調整室及び多目的室を配置します。

付随機能（大ホール系機能と共用可能なものを含みます）

- ◎ホワイエには、バーカウンター、トイレ(女性数に配慮・みんなのトイレを含む)、主催者事務室や客席係控室、クローク(一部ロッカーでの対応も検討)、付随する倉庫などを計画します。
- ◎楽屋は、必要な設備を備えた大・中・小楽屋を不足のないように計画し、防音にも配慮します。
- ◎楽屋エリアには、舞台技術スタッフ控室、アーティストラウンジ、給湯室、トイレ(みんなのトイレを含む)、シャワー、楽屋事務所(楽屋口に隣接)などを計画します。

4.施設計画

(2)各機能の概要

③展示系機能

ギャラリー

- ◎大型の作品を展示できるように、4m程度の有効天井高さを備え、350㎡程度の展示空間を確保します。四周を展示壁面としますが、可動展示パネルにより、展示壁面長を補うと共に、小展示空間に分ける区画としても活用し、それぞれが単独利用できる自由度の高い展示空間を作れるようにします。
- ◎床仕上げは、フローリングの床を基本とします。
- ◎平面作品だけでなく立体展示や生け花など多様な展示に対応できる計画とします。
- ◎展示利用以外にも、関連するワークショップや講演などの利用を計画します。
- ◎継続した展示を行うことで、市民が恒常的に集い、にぎわいの創出に寄与するとともに、そのにぎわいがギャラリーの外にもあふれ出るような配置計画とします。
- ◎音楽とのコラボレーションなど多様なアートシーンに対応する設備を備えます。
- ◎大スタジオやワークショップルームとの連携を考慮するとともに、にぎわいの創出につなげることのできる配置とします。
- ◎有料での企画にも対応できる施設計画とします。
- ◎演出を伴うような多彩な事業に対応できる演出照明や音響などを計画します。

4.施設計画

(2)各機能の概要

③展示系機能

準備室

- ◎展示のための準備を行うための機能を、ギャラリーに隣接して計画します。
- ◎様々な展示に配慮するため、水場や作業台などに加えて必要な備品庫などを整備します。

備品庫・収納他

- ◎展示台や展示照明、脚立や高所作業台、その他必要な備品を収納しておくための室を付属させます。
- ◎展示系機能のために専用で使用できる搬入口を計画します。

4.施設計画

(2)各機能の概要

④創造系・支援系機能

大スタジオ

- ◎芸術文化創造活動の公演、練習やリハーサル、展示などに利用できる室とします。
- ◎大ホールの主舞台に準じる広さを備え、練習やリハーサルに必要な広さと演出家やデザイナー、スタッフが控えるためのスペースを確保した面積とします。また、舞台芸術の創造を支える演出設備や機能を備え、大道具などを仮仕込みした状態での練習やリハーサルも行えるように計画します。
- ◎小規模な公演や試演会などが行えるよう、必要な建築条件を満たすとともに、演出設備や機能を備えます。
- ◎平土間とすることで、任意の位置に舞台や客席が配置でき、舞台芸術や音楽芸術の公演だけではない、自由な発想での利用を支援できる計画とします。そのために必要な遮音や静音性など建築音響性能を備えます。
- ◎催し物の内容によって、ホールの楽屋、展示、懇親会会場としても利用できる機能を備え、ここに至る動線にも配慮します。展示については、ギャラリーとの連携を考慮します。
- ◎公演利用に際しては、更衣室や控室としても転用できる諸室を計画していきます。また、多数の備品が必要になるため、適切な規模の倉庫を計画します。

4.施設計画

(2)各機能の概要

④創造系・支援系機能

中スタジオ

- ◎小規模の練習やリハーサルが行える室とします。
- ◎公演利用に際しては、楽屋や控え室として利用することも想定します。
- ◎中スタジオは小ホールの主舞台に準じる広さを備えるものとします。
- ◎上記の他に、より小規模な室の設置も検討します。

小スタジオ

- ◎個人や少人数での練習やリハーサルなどが行える室として、中スタジオより小規模なスタジオを複数計画します。
- ◎肉声や生音の楽器の練習に適したスタジオと、電気楽器を使用できる吸音性能と遮音性能を備えたスタジオを整備します。
- ◎ピアノやドラムセットを常設する室を設けることも検討します。

4.施設計画

(2)各機能の概要

④創造系・支援系機能

ワークショップルーム
創造スタッフ室
更衣室
楽器庫
その他

4.施設計画

(2)各機能の概要

⑤交流系機能

オープンロビー、レストラン・カフェ、託児室

⑥管理系機能、その他

管理事務室、倉庫、機械室、その他の諸室

(3)施設計画におけるその他の留意点

①駐車場、駐輪場

②周辺環境整備

③備品

5.管理運営

(1)基本的な考え方

(2)運営組織

- ・直営
- ・指定管理者

(3)運営

- ・開館時間、休館日
- ・利用申請、利用日数など
- ・収支バランス
- ・評価について

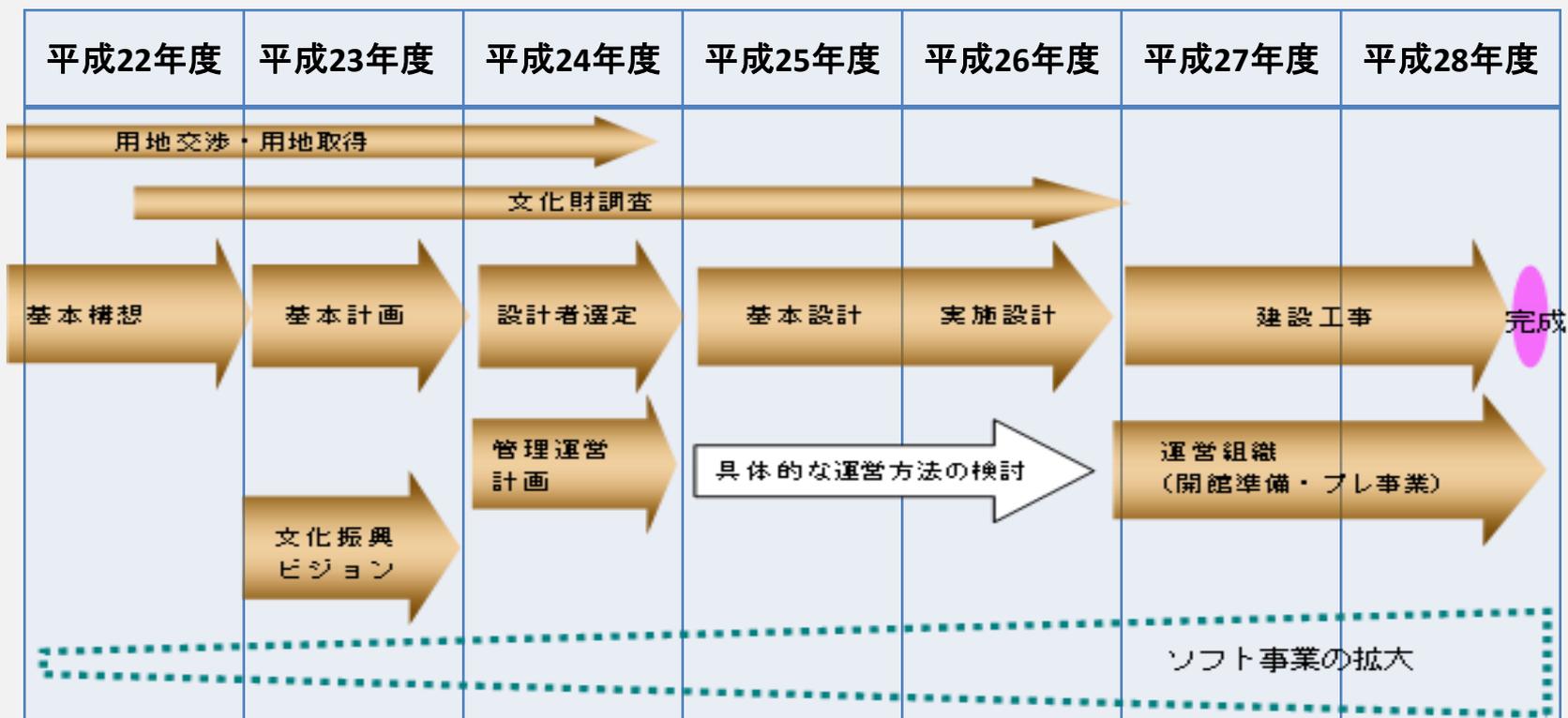
(4)市民参加

6.整備推進方針

(1)敷地計画

(2)三の丸地区の整備

(3)整備スケジュール



(4)事業手法